

次期学習指導要領に向けた検討事項と、今、大切にしたい取組

【検討項目①】 特別支援学校学習指導要領の総則等の構成・記載の在り方について

現在、中央教育審議会では、2030年頃の実施が予定されている次期学習指導要領に向けた議論が進められています。令和7年9月には、教育課程企画特別部会において「論点整理」がまとめられ、今後の検討の方向性として、次の三点が示されました。

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実装
- ・多様性の包摂
- ・実現可能性の確保

この中でも特に注目したいのが「多様性の包摂」です。児童生徒一人一人の個性や特性に応じた学びを充実させる観点から、「調整授業時数制度」の創設が提案され、検討が進められています。

この制度は、授業時数にこれまで以上の柔軟性を持たせることで、教師の働き方や子供の学びに“余白”を生み出し、教育の質の向上を図るものです。教科ごとの授業時数を一定の範囲で調整できるほか、その活用方法は学校の裁量に委ねられ、「裁量的な時間」を設定することも可能になります。

論点整理(抜粋)

小・中学校では、「教育課程の編成における共通的事項」を、「内容・指導計画に関する共通的事項」(仮称)と「授業時数に関する共通的事項」(仮称)に分け、「授業時数に関する共通的事項」(仮称)において、調整授業時数制度等について記載してはどうか。

【調整授業時数制度】とは何か

「調整授業時数制度」は、義務教育段階の授業時数に柔軟性を持たせ、子供の学びと教師の働き方に“余白”を生み出し、教育の質の向上を図る制度です。

現在は、次のような仕組みが検討されています。

(ア) 授業時数の柔軟化

総授業時数は維持しつつ、教科ごとの時数を一定範囲で調整可能とする。

(イ) 学校裁量による活用

調整した時数は、既存教科への充当や新たな領域の設定など、各学校の裁量で活用できる。

(ウ) 「裁量的な時間」の創設

個々の実態に応じた学びを充実させるための時間を設定できる。

(例：基礎的理解の定着、学習方略の指導、探究活動、ソーシャルスキルトレーニング等)

なお、この時間の一部は、授業改善に向けた研究・研修にも充てることが可能とされています。

特別支援教育ワーキンググループ(第7回)では、特別支援学校学習指導要領について、次のような方向性が示されました。

特別支援学校学習指導要領は、小・中・高等学校の学習指導要領の構成や内容に準じつつ、特別支援学校に必要な事項を加えて作成されている。そのため、教育課程企画特別部会や総則・評価特別部会で示された見直しの方向性は、特別支援学校においても同様に取り入れていくべきである。

特別支援学校学習指導要領は、小・中・高等学校に準じつつ、必要な事項を加えて作成されています。そのため、教育課程企画特別部会や総則・評価特別部会で示された見直しの方向性は、特別支援学校においても同様に取り入れていく必要があります。

こうした議論を踏まえ、私たち特別支援学校の教職員にとっても、「調整授業時数制度」への理解を深めることが重要です。

では、「多様性の包摂」や「調整授業時数制度」といった方向性を踏まえ、今、学校として大切にしたい取組は何でしょうか。

それは、現行学習指導要領に示された「カリキュラム・マネジメントの充実」の趣旨を、改めて徹底し、着実に実行することです。

そのためには、教職員一人一人が、授業時数の配当・管理・検証を含めたカリキュラム・マネジメントに主体的・対話的に関わるのが重要です。

〈今、重視したい取組〉

- ・「時間」という限られた資源を意識し、指導と評価の一体化を図る
- ・単元配列と授業時数を明確にし、見直しをもって計画・管理する
- ・予定時数と実施時数を比較・検証し、単元計画の改善につなげる

これらを無理なく進めるため、虹の原では、単元に着目したカリキュラム研究を進めています。小中高共通の『単元シート』を活用し、作成—運用—評価—改善のサイクルを通して、授業時数の管理・検証・活用に慣れる経験を積み重ねていきます。

【参考】

「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」
(令和6年9月)

- 総授業時数は、これ以上増やさない方向で検討する必要がある。
- 1コマごとの授業に追われるのではなく、学年・学期といった長期的視点で、単元を基盤に授業を構想し、評価場面を精選することが重要である。これは、指導や評価の負担軽減に加え、教師の専門性の向上や、資質・能力の育成、多様な子供の包摂にもつながる。現行学習指導要領にも単元ベースの授業改善は示されているが、その意義は十分に共有されているとは言えない。今後は、目標・内容の構造化との関連を踏まえ、単元で授業を構想する意義や考え方を整理し、現場に分かりやすく示すことが求められる。

「やってみよう」、「もう一度やってみよう」、「最後までやってみよう」
この言葉を大切に、魅力ある虹の原の教育を育てていきます。